

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	北区
学 校 名	大阪市立豊崎小学校
学校長名	福永 雅士

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査内容

#### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

#### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

### 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立豊崎小学校では、第6学年 26名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度の調査では、平均正答率が国語科で60%、算数科で60%、理科で47%となった。算数科においては全国・大阪市平均ともに58%の正答率であり、2%上回る数値となった。一方、国語科・理科では全国平均および大阪市平均を下回る結果となった。なお、平均無答率については、国語算数理科いずれの教科においても1%以下となった。これは全国・大阪市平均を大きく下回っており、最後まであきらめずに解答しようと努力した児童の姿勢が表れた結果となった。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】学習指導要領の内容「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」では全国・大阪市平均を上回る結果となった。これは日々の基礎基本を大切に家庭学習および自主学習の積み重ねによるものだと考える。一方「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」の項目においては、全国正答率を10%以上下回る結果となった。正答が本文内に明確に記述されている設問には正答する傾向があるものの、本文の内容をふまえて自分の考えを問われる設問には正答できない傾向がうかがえた。

【算数】すべての領域において、全国・大阪市の平均正答率とほぼ同数値の結果となった。このことから基礎基本的な学習内容の習得は十分できていると考える。しかしながら、問題文で何が問われているのかを十分に理解しないまま解き進めたり、自分の考えを記述するところに課題が見受けられた。

【理科】すべての区分・領域において全国・大阪市平均正答率を下回る結果となった。特にB区分「生命」を柱とする領域においての正答率が低かった。これまでに学習した内容については一定の知識は有しているものの、それらを活用し考えることが必要とされる設問に対しては、苦手意識がうかがえた。

質問調査より

「人が困っているときには、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問では、肯定的に回答した児童が、どちらも100%という非常に高い割合であった。これは、家庭の深い愛情の中で育まれた素地であることはもちろんだが、学校教育の中で日々実践を行っている、自分の命・相手の命を尊重する教育や人権教育の積み重ねが、児童の心に浸透し、結果に表れてる。一方、日々の生活面では昨年に続き課題がみられた。「朝食を毎日食べていますか」「毎日決まった時刻に起きていますか」「学校に行くのは楽しいですか」等の質問では、肯定的に回答する児童の割合が、全国平均や大阪府平均を下回る結果となった。今後は「早寝・早起き・朝ごはん」等日常生活において規則的な生活習慣をきちんと身に付ける指導を、学校・家庭・地域と連携し継続的に行っていく必要がある。

## 今後の取組(アクションプラン)

学力に繋がる基盤として、児童らが主体的に学校生活を楽しみ、心身ともに健康であり、そして日々の学習にやりがいを感じながら、前向きに生活していくことが重要であると考え。そのためにも、大阪市の教育振興基本計画の9つの柱を教職員一人一人が念頭に置き、子ども達とともに汗をかいていきたい。

○「誰一人取り残さない学力の向上」のため、大阪市の取組施策のひとつである「主体的・対話的で深い学びの推進」を基本とし、各学年での授業改善に継続して取り組んでいく。特に、国語科・算数科においては「習熟度別・少人数学習」を引き続き実践するとともに「教科専科学習」についても年間を通して計画的に進めていく。

○「教育DXの推進」のためICT機器を積極的に活用し、デジタル教材や一人一台端末による個別最適な学びの充実を図る。そして引き続き、児童の未来に生きる基礎・基本的な学力の定着と底上げを行っていく。

○児童の「豊かな心の育成」のために、児童に関わる教職員の人間性と資質の向上を図り続けていく。そのためにも、引き続き、教職員自身が校内外を問わず研修研鑽に努め、児童に還元できるようにする。

○家庭・地域との連携を更に密にし、児童に「体験・理解・協働」の喜びを味わわせていく。